

コロナ禍における体育系各教育組織の対応

体育専門学群

2020年3月

- 第1波の感染拡大に伴い、運動部活動委員会を中心に、学外への移動制限、交流制限を基本とする対応策を講じた。
- 卒業式が中止となった。
- 新入生ガイダンスにおけるオンライン化の準備を、新入生オリエンテーション委員会を中心に開始した。
- 体バチ・芸バチなどの共用スペースを閉鎖した。
- 教育課程委員会内において授業オンライン化担当を設置し、オンライン化への準備を加速させた。

2020年4月

- 体育専門学群独自の健康チェック体制を、健康管理委員会を中心に構築した。
- 部活動等が中止となった。
- 入学式が中止となった。
- 体育専門学群独自の「新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動マニュアル」を体芸支援室総務と連携し作成した。
- オンライン授業における情報弱者の調査を、授業オンライン化担当およびクラス担任を中心に、情報関連機器の貸与等の支援をした
- 臨海実習の中止を決定した。

2020年5月

- 体育専門学群の学生に対するストレスチェックを、学生委員会を中心に実施した。
- モバイル端末で入力・管理できる健康チェックツールの導入を、運動部活動委員会を中心に検討し、学群でのプロジェクトに位置付け予算化し、部活動単位で順次実施した。
- 体育専門学群における実技実習（必修科目）等の実施方法に関する検討を、教育課程委員会を中心に開始した。
- 学生支援緊急給付金への申請作業を、体芸支援室教務・学生支援と連携し推進した。

2020年6月

- オープンキャンパスが中止、およびオンライン開催となり、学生担当副学群長を中心に準備を開始した。

- 体育専門学群における実技実習等を対面で実施するため、体育センターと連携し、体育関係施設における利用ルールを整備した。
- 体育専門学群独自の「新型コロナウイルス感染拡大防止のための行動マニュアル」を大学本部が公開した内容に従って改訂した。
- 体育専門学群における実技実習科目の特例的再開について、学長および担当副学長と協議しながら必要な各種申請書を作成・提出し、特例的再開が認可された。

2020年7月

- 課外活動制限下における活動再開の特例措置を受けて、体育センターと連携し、運動部活動委員会を中心に対応した。

2020年9月

- 1学年全員の対面授業が可能な教室を提供するため、体芸支援室教務の協力を得ながら関連予算を申請し、2つの大型教室をカメラ・音声でつなぐ形を実現した。
- 第2派の収束に伴い、秋学期の授業形態を見直し、大型授業のオンライン（オンデマンド）形式は続けるものの、収容人数の条件を満たす授業は対面形式を選択できるように、教育課程委員会を中心に検討・支援した。

2020年10月

- 一部対面授業が再開される一方、学内でもオンライン授業を受けられるように、体芸支援室教務の協力を得ながら、芸術専門学群とも協議し、開放教室の運用を開始した。
- 学群推薦入試における実施方法について、教育担当副学群長および入試実施委員会を中心に、追試の在り方を含め検討を重ねた。

2020年11月

- 感染対策の徹底を確認し、学群推薦入試を対面で実施した。

2020年12月

- 第3波の感染拡大に伴い、年末年始の過ごし方について、学生担当副学群長を中心に検討し、学群長メーリングリスト、クラス担任が設定してい

るメーリングリストなどを利用して注意喚起を行った。

2020年1月

○学群前期入試時における実施方法について、教育担当副学群長および入試実施委員会を中心に、オンラインで実施せざるを得ない場合の対応、追試の対応を含め検討を重ねた。

2020年2月

○第3波の収束を見極めながら、感染対策の徹底を確認し、学群推前期入試を対面で実施した。
○宿泊形式の学外実習である雪上実習を、より強い感染対策を設定しながら実施した。

2020年3月

○卒業式において、中央体育館を利用し、立式ながら対面の学位授与式を挙行了した。

2021年6月

○卒業認定に関わる臨海実習の実施は、もはや先送りできないため、学内と学内での実習を組み合わせるハイブリッド実習を検討し、学外においては日帰り方式(3年生全員4班4日間)で実施した。

2021年8月

○第5波の感染拡大の中、体育専門学群で初めてのクラスターが発生し、本部リスク管理およびつくば市保健所と連携しながら、更なる拡大防止に努めた。

2021年全体

○2021年度は、基本的に2020年度に構築・実施した体制・ルールに微修正を加えながら、各種の事業の運営・実施を行った。

2020年～2021年全体

○感染拡大と収束が繰り返される中、状況に応じて学生に注意喚起や連絡を行うため、随時、学群長メーリングリスト、クラス担任や研究領域代表教員が設定しているメーリングリストなどを利用した。

体育学学位プログラム

体育学学位プログラムにおける新型コロナウイルスへの対応として、入学試験における対応を以下に特記する。

体育学学位プログラムの入学試験における対応

令和3年度入試は、完全オンラインにて実施した。

また、令和4年度入試は従来通りの対面型を基本としつつ、試験当日に入校が困難な受験生に対してオンラインでの追試験を実施した。これらのオンラインでの試験はZoomおよびmanabaを使用して実施し、入試の円滑な実施と入試事故の防止に向けて、主に以下のような工夫および配慮等を行った。

1. 令和3年度および令和4年度の入試では、試験日の約2週間前に、オンラインで受験するすべての受験生に対して「Zoom接続テスト」を実施した。Zoom接続テストでは、受験生のネット環境や受験環境を確認するとともに、オンライン入試の実施方法や受験にあたっての注意事項等について連絡した。また、manabaを使用した論述形式の専門科目試験について、事前に解答方法の説明および練習を行った。なお、Zoom接続テスト後にも受験生が試験2日前までmanabaの操作方法の確認や練習ができるように「解答入力練習用」のコースを設けた。
2. 令和3年度入試では、試験日の約2週間前に、口述試験の面接委員および専門科目の監督員を対象としたオンライン入試の説明会および練習会を実施した。そこでは、オンラインでの口述試験および専門科目試験の実施要領の説明、口述試験の実演、manabaでの専門科目の試験方法の説明、機材の取り扱いの説明、Zoomミーティングへの仮接続、Zoomでの口述試験の練習、Zoomでの専門科目の試験監督の練習(不正行為防止のための対応を含む)等を行った。また、Zoomでの専門科目試験には、不正行為防止のため、監督者1名につき受験生5名以下となるように試験監督員を配置した。
3. オンライン口述試験および専門科目試験において、Zoomによるオンライン試験室とは別のZoom IDを設定し、受験生の待機室および出欠確認のための控室を設けた。
4. オンラインでの入試に係る監督要領やマニュアル(口述試験実施要領、専門科目監督要領、再試験実施要領、オンライン控室補助員マニュアル、入試本部対応マニュアル、Zoom接続テスト実施要領等)を作成した。
5. オンライン入試における不正行為の防止およびその対応のためのマニュアルを作成し、受験生および試験に関わる委員に周知した。試験当日は、不正行為の防止のために、受験生の受験環境等の確認を徹底するとともに、受験の様子をビデオ録画した。
6. 受験生のネット環境が不安定な時などの緊急対応として、電話連絡ができるように準備した。

また、試験当日に再試験や追試験の対応ができるように、事前に準備を整えた（連絡体制の確認、マニュアルの作成、機材や試験場の確保、試験員の配置等）。

コーチング学学位プログラム

オンラインまたはハイブリッド形式（オンラインと対面の併用）で実施したもの

授業（専門科目）

コーチングの哲学と倫理（1年春 AB 1単位）

コーチング学事例研究法（1年春 AB 1単位）

コーチング学研究法Ⅰ（1年秋 AB 1単位）

コーチング学研究法Ⅱ（集中 1単位）

研究報告会、予備審査会、学位論文審査会（個別、随時）

オンラインによって実施したもの

研究セミナー（2020年7月3日、12月10日、3月17日、2021年7月14日）

コーチング事例報告会（2021年2月9日）

資料配布のみで実施したもの

新入生ガイダンス（2020年4月5日）

対面で実施したもの

FD研修会（2020年11月16日）

入学試験（2021年2月2日）

学位記交付式（2021年3月25日）

新入生ガイダンス（2021年4月5日）

スポーツ国際開発学共同専攻

- 1) 対面講義からオンライン講義に切り替えた。
- 2) 海外インターンシップは、新型コロナウイルス感染防止のため国内インターンシップに切り替えた。
- 3) 毎年、外国人教員2名をイギリスから招聘して集中講義を対面で開催しているが、コロナ禍ではTEAMSソフトウェアを利用したオンライブ講義とした。
- 4) コロナ禍におけるオンライン授業について、学生の学習成果と教員の指導経験に関する調査研究を実施し、英文誌に投稿した。
- 5) 毎月開催されるスポーツ国際開発学共同専攻の運営会議は、オンラインで実施している。
- 6) 令和4年度の入学試験は、対面ではなく、筑波大学と鹿屋体育大学でオンライン試験を同時に実施した。

大学体育スポーツ高度化共同専攻

本専攻においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止を図り、学生が修学する上で不利益を被らないこと、また、学生、教員及び職員の安心と安全を守ることができるよう、授業や業務において以下のように対応してきた。

1 授業等について

本専攻の学生は、主に大学の現職教員あるいは、鹿屋体育大学の学生ということから、かねてよりオンライン及び遠隔講義システムを活用し授業を実施してきた。したがって、講義科目については、コロナ禍にあっても支障なく行うことができた。しかし、学生がつくばサマーインスティテュート、大学体育授業演習などの実習系科目を履修した場合は、他の科目で履修するように指導するなどして対応した。

また、学位論文の中間報告会（年2回開催）やQE、予備審査会、本審査会についてもオンラインで実施した。普段の論文指導においてもできる限り、オンラインでの指導を心掛けた。

2 入試について

本専攻の入試は、これまで東京キャンパスで実施してきた。令和3年度入試は、両大学の教職員が東京キャンパスに集合し、口述試験、判定会議を対面で実施した。しかし、令和4年度入試は、新型コロナウイルス感染症が拡大し第5波の時期（9月19日）と重なったこともあり、オンライン（Zoom）で実施した。事前の接続テストなど準備に手間を要したものの、当日の入試は支障なく実施することができた。また、判定会議も、筑波大学、鹿屋体育大学をオンラインで結んで行った。

3 委員会活動、会議について

本専攻は、毎月1度、遠隔会議システムを活用して運営委員会を実施している。コロナ禍前は、各大学職員がそれぞれの大学の会議室（筑波大学の場合はGSI棟）に集合して遠隔会議を行っていたが、コロナ禍になってからは、教員が会議室に集合することをやめて、それぞれの研究室等においてオンライン（WebEx）で実施した。また、議題が少ないときには、できるかぎり書面会議で対応した。

4 その他

毎年日韓台大学体育研究フォーラムを開催しており、過去2回はオンサイトで開催したが、令和2年度第3回大会（主催：韓国）は、オンラインで開催した。

体育科学学位プログラム

○授業：

「研究方法論Ⅰ」は、受講生も少ないことから対面で実施し、「研究セッション」は博士前期課程の学生が参加することもあり、R2年度と同様にオンラインで実施。

○入試：

R3年度入試は対面で実施した。その際、感染防止、感染拡大防止のために、手の消毒、マスク着用を徹底した。

○学生指導：

各研究室の対応に任せた。